魅力的な目の大きさに関する実験心理学的研究

加古　真也

顔の魅力評価における目の大きさの影響はとても大きいものである。そこで本研究では顔の魅力評価における性差を検討することを目的としていた。

実験参加者の課題は，画面に提示された二枚の顔写真のうち，より魅力的に知覚される顔を選択することであった。提示される顔写真は平均顔であったが，目の大きさだけが 80%から 120%まで 4%刻みで系統的に操作されていた。実験は男性平均顔と女性平均顔のブロックに分けて行われた。刺激の組み合わせは一対比較法にのっとった。目の大きさの異なる各刺激において，「より魅力的である」と選択された頻度を元に，最も魅力的に知覚される目の大きさを推定した。

実験Ⅰでは正立顔を用いて実験を行った。その結果，女性刺激画像の最も魅力的に見える目の大きさは約 106%で，男性の最も魅力的に見える目の大きさは約 102%で，女性の最も魅力的に見える目の大きさは男性のそれより大きいことが示された。観察者の性別による効果はみられなかった。さらにアンケートの結果から漫画を読む頻度や「目」が自分の顔の好きなところであるかそうでないかという条件でも目の大きさが魅力評価に影響を与えていることがわかった。実験Ⅱでは倒立顔を用いて実験を行った。その結果，正立条件と倒立条件では倒立条件の方が目の大きい画像をより魅力的であると判断することが明らかになり，その傾向は特に男性顔の刺激で顕著であった。

この結果から，正立条件で全体処理がおこなわれ「顔」として知覚したときは，男の目は大きくなくても魅力的であると評価されるが，倒立条件で部分処理がおこなわれ「目」だけに着目したときは大きい方が魅力的であるということが考えられる。これは顔全体で見たときはほかのパーツとの複雑なバランス関係が影響するため，目だけが大きいからといって必ずしも魅力的であるとはいえない。しかし，本質的には大きい目というものが好まれるため，目だけに着目すると大きな目が選択されたと考えられる。(基礎心理学)

図 1　女性の平均顔

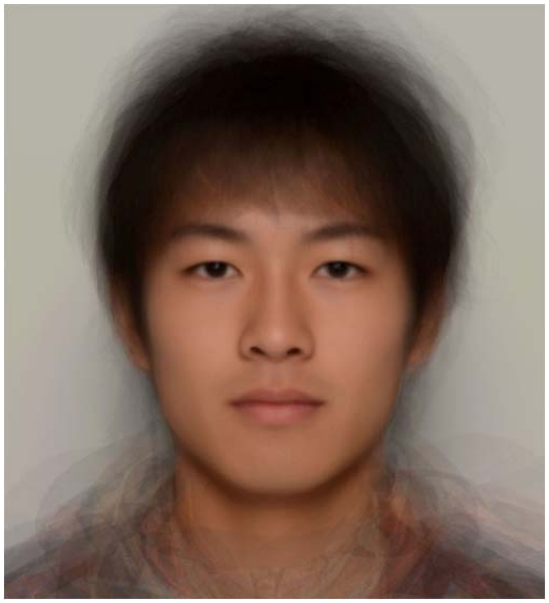

図 2　男性の平均顔